

令和 5 年度国外研修報告書

「BrexIt による国家形態の変容」

研 修 先 :

The Dickson Poon School of Law King's college London および
Edinburgh Law School the University of Edinburgh

研 修 期 間 : 2023 年 8 月 26 日～2024 年 8 月 26 日

研修協力者 : Keith Ewing 教授および Navraj Singh Ghaleigh 上級講師

(国外研修員)

所属 基礎教育センター

職名 准教授

氏名 宮内紀子

1. 研修テーマ

今回の国外研修のテーマは「**Brexit** による国家形態の変容」であった。戦後、大英帝国が崩壊し、近年は権限移譲が進み、さらに **Brexit** を経て「イギリス」という国家はどのように変容しているのか。今回の国外研修ではこの大きなテーマを、**Brexit** による影響に射程を限定した上で、専門領域である国民・市民概念の観点からアプローチした。

2. 研修先・期間

研修先は **King's college London** と **the University of Edinburgh** で、前者への所属期間は 2023 年 8 月 26 日から 1 年、後者については 2024 年 5 月 1 日から 7 月 31 日とした。

研究協力者は **King's college** では **Keith Ewing** 教授、**the University of Edinburgh** では **Navraj Singh Ghaleigh** 上級講師とした。両者ともに、当該研修者が所属しているイギリス憲法研究会を通じて交流があった。また両者ともにイギリスの公法学者として著名かつ多忙であるが、今回の受入れに伴い大学での手続きに加え、大学内・外を案内していただいたり研究テーマについて議論をしたり貴重な時間をいただいた。エジンバラでは、同じくイギリス憲法研究会を通じて交流のあった **Chris Himworth** 名誉教授にも研究テーマについての貴重な意見を頂戴した。研究テーマ・関心が共通している若手研究者の **Timothy Jacob-Owens** 博士と議論を交わした。またパリ第一大学の **Marie Gren** 教授からは研究分野は異なるが、エジンバラ滞在中、憲法の教授作法の英仏比較という大変興味深いテーマについて教授いただいた。

3. 研修概要

基本的に共同研究室において判例、制定法および論文を熟読、特に滞在後半からは論文執筆や学会報告に向けての準備を行っていた。時折、議会・裁判所傍聴や学会参加に加え、さまざまな国・他分野の研究者との交流を行った。

また研究者だけとの交流ではイギリスという国家全体を理解することが難しい。研究論文には直接的にあらわれることはないが、一般市民の理解・振る舞いも研究を進める上で必要な材料となると考えたため、コミュニティーセンターなどを通じて一般市民との交流も積極的に務めた。

本研修結果については、学会報告および学術論文などで公表予定である。